



開通式では両国の国旗を掲げ、友好を確かめ合った



モドゥモティ橋と田園風景

日・バングラ友好の象徴

クロスボーダー道路網整備事業 パッケージ A1 モドゥモティ橋 鉄建建設 横河ブリッジ

クロスボーダー道路網整備事業では、南アジア地域全体の安定と経済発展に貢献するため、バングラデシュ国内の主要な国際幹線道路網を整備する。鉄建建設などの J V が施工したモドゥモティ橋は、ガンジス川の支流であるモドゥモティ川渡河箇所にて新設した全長 690 ㍎の 6 車線道路橋だ。主径間は、日本での施工実績が豊富な橋梁形式である鋼ニールセンローゼ橋。バングラデシュで初めて採用した構造で、両国の友好の象徴となるシンボリックな形式だ。また、開通した 2022 年は、両国の外交関係樹立 50 年の節目だった。

シンボリックな橋梁形式

主径間長は 150 ㍎、桁下航路高が確保され、傾斜したアーチとケーブル形状により、景観性に優れる。鋼板は重防食塗装仕様、ハンガーケーブルは防食性に優れたメッキ仕様の New I PWS、アーチ支点部には予熱不要な鋼材を採用した。側径間は径間長 45 ㍎の 6 径間 P C I 桁橋。

同橋を含むアジアハイウェイ 1 号線のベナポール国境タツカ区間は、各種国際回廊計画で優先案件とされている。架橋箇所は、同区間で先行実施しているパドマ橋の完成後にミッシングリンクとして残るため、同橋の建設は事業の最優先案件で、パドマ橋との同時開通が最重要課題だった。

工事開始後、用地引き渡しの遅れによる着手遅延、コロナ禍

利便性向上、経済発展に寄与

による資材調達の遅れ、作業員不足などに加え、南アジアモンスーン豪雨の影響で、工程が大幅に遅延した。

しかし、上部工架設方法の変更や品質・施工管理の厳格化による手戻りの防止といった工期縮減対策を徹底し、品質を確保した上でパドマ橋に続いて 3 カ月後に開通した。

のどかな田園地帯に暮らす地域住民の長年の要望で開通したモドゥモティ橋。渡河時間はわずか数分に短縮し、交通や物流の円滑化による住民の利便性向上や地域の経済効果を発揮した。観光地としても注目されており、日暮れ時には多くの人が訪れる。

海外建設協会の「第 3 回 O C A J I プロジェクト賞」の受賞 7 事業を紹介します。



正面から見た主径間ニールセンローゼ橋

- 概要
- ▷実施者＝鉄建建設・AML・横河ブリッジ J V
 - ▷実施国＝バングラデシュ人民共和国
 - ▷実施都市・地区＝クルナ管区バディアパラ、モドゥモティ川
 - ▷プロジェクト関係者＝バングラデシュ道路交通橋梁省道路・国道部（発注者／施主）、オリエンタルコンサルタンツグローバル・オリエンタルコンサルタンツ・パデコ J V（設計者）
 - ▷実施期間＝2018 年 8 月～22 年 8 月

